

祝 城端曳山祭 重文指定 お祭り特集号



当店標準価格	紺一色染	緑・茶色	二色ボカシ
二間 (360cm)	23,000円	25,500円	24,000円
二間半 (450cm)	27,500円	30,000円	29,500円
三間 (540cm)	32,500円	35,500円	34,500円
三間半 (630cm)	39,000円	42,000円	42,000円
四間 (720cm)	43,000円	46,000円	46,000円

**他町の専門店より安い！
お祭り幕を
新調しませんか**

左表をご覧ください、綿60ブロード生地到家紋を二つ染め、家名を染めて、共色チチ布付き仕立にしました。幕縄と六寸紫房を含んでの価格です。

ご一報頂ければ、採寸見積もりにかがいます(見積無料です)、お気軽にフリーダイヤルにお電話ください。

特殊サイズ、特別柄等の特注も承っております。ちなみに当店の祭幕は西上の竹田山の車輪から図案をおこしたオリジナルです。(上の模様参照)



発行
きよべ呉服店
0120-62-0227
蔵布都 藍
0763-62-3118
城端にしまち通り
FAX 0763-62-3733

WebSite(URL)
www.craft-ran.com/kiyobe

古い着物を買取
タンスや蔵の古い着物を譲ってください。
汚れていても、破けていても大丈夫です。
古物商許可 県公安委員会第7052号



**男性の紋付・袴は
一生の財産です。**

数年で着られなくなるスーツより、体型が変わっても一生着られる紋付・羽織・袴をこの機会に準備されませんか？
一式揃えられても、女性の第一礼装である留袖一枚より断然安く揃えます。

きよべでは常時、何種類もの袴や角帯を常備しております。いつでもおこしくください。

ご存じですか？

『花祭行進曲』

赤尾白嶺 作詞
成瀬鉄治 作曲

- 一、昔も昔 三千年
花咲き匂う 春八日
響き渡った 一声は
天にも地にもわれ一人
- 二、立派な国に 生まれいで
富も位も ありながら
一人お城を ぬけいでて
六年にあまる 御苦行
- 三、円い世界の まん中で
教えの門を うち開き
かわける人にふりまいた
甘露の水は 限りなし

一行広告 すてきなふりそでがたくさん揃っています。

城端しだれ 桜まつり開催

四月六日(土)十四日(日)

城端には見事な桜の木が何本もあります。桜めぐりマップを片手に、久しぶりにまち中を散策してみませんか？
善徳寺の花祭をこの期間中に移動していただいたことを契機に、様々な方々が一緒に桜祭りを盛り上げてくださいます。

期間中の主な行事予定)

4月6日(土) 准仏式

花祭の白象を山門下に飾ります

4月7日(日) レトロな紙芝居等

4月8日(月)より 花見茶会(天谷婦人会)

4月8日(月)より 花見句会(城端俳句会)

4月9日(火)より 花見句会作品展

4月10日(水) 白象行進

4月11日(木) 花見団子(商工会女性部)

4月12日(金) 『大納言の間』 拝観案内

また期間中、各店頭で縁台に赤い毛氈を敷いて、皆様に歓迎いたします。各店内では様々な催し物を企画中です。お楽しみに(当店は下に)

**ギャラリー蔵布都藍
次の催しもの案内**

桜染め試遊会

「草木で桜色に染めてみませんか？」

城端しだれ桜まつり期間の
4月7日(日)

午前10時より午後三時まで
草木染で桜色を絞り染めてみませんか？

茜(アカネ)で、絹を染めます。

桜の原木はオレンジ系の色味を含んでいるので、きれいな桜色にはなかなか染まりません。江戸時代には桜色を染めるのにアカネを使用していました。今回の試遊会もそれになら、アカネを用いて三つの媒染剤で染め分けてみます。

ほんのお試しですが、簡単な絞染め体験も実施します。

混み合うとつまく染まりませんので、事前にご予約ください。

参加費500円(含む生地代)

巨大プロジェクト?? 『城端城を捜せ!!』

みなさんご存じのように「善徳寺が招請される前は城端に荒木大膳の居城があった」とされています。

では実際その場所はどこだったのでしょうか？善徳寺境内？それとも??

今のところ文献は何も発見されていません。それならば！と大胆な仮説とフィールドワークでの検証をしようというプロジェクトが動き出しました。

城端の町建ての謎がとけるかもしれません。詳細は次のきよべかわらばんにて...。乞うご期待？

越中城端善徳寺を考えるホームページ
<http://web19.infoseek.co.jp/diary/arahousi/>

メンバー募集

「合併せずとも城端が生き残れる方法の研究会」(仮称) 市町村合併協議が喧しいですが、「住民が主体であるべき」といいながら実情は行政が推進役にまわりがちです。ともすれば、「合併しないと城端町の未来は暗い」とまで言われていますが、本当にそうなのでしょうか？

住民に合併の是非を問うことは勿論ですが、もし「合併しないという選択肢」があるのなら、「いかにして城端を生き延びさせるか？」という議論が事前にあってもいいのでは？と考えて、この研究会を任意で設立しました。

城端が合併することに賛成の人も、反対の人も、よくわからない人もOKです。肩ひじ張らず、眉間にしわを寄せずに話し合っていける場所になれば良いと思います。気軽に参加してください。

発起人 清部一夫